

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2023年9月5日放送分・支倉丁／支倉通】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 伊達政宗の時代に整備された、四ッ谷用水の流れを追いかけています。我々は城下町に入って八幡町から梅田川までを追う旅の途中。ここしばらくは本流を離れ、第1支流 → 城下の難所へくり沢 → 広瀬川とオプションツアー中です。



■ 今回は、青葉区広瀬町の閑静な住宅街からスタート。■ コーナー39本目の辻標は「支倉丁／支倉通」です。県庁・市役所の裏側の通り＝北一番丁の西詰、北に曲がる所にある辻標です。その北に向かう道が「支倉通」です。北方向は現在、東北大学医学部の敷地に塞がっていますが、かつては北八番丁あたりまで通じていました。登城する侍達が多く往来した道です。そもそも支倉丁は、慶長遣欧使節で知られる支倉常長の養父・支倉紀伊時正という人物の屋敷があったといわれる事が地名の由来とされています。また、辻標そばの邸宅は、伊達政宗の十男・伊達兵部宗勝の屋敷があった場所。屋敷からは、南側へ崖を下りる道がついていました。この坂を「支倉坂」と呼んでいたようです。

〈文・佐々木淳吾〉

■ 広瀬川の中州を經由して「支倉橋」という橋も架かっていたようで、木村浩二さんは2018年に伊達武将隊の支倉常長さま達と調査隊を結成して、川の中に木を埋め込んだと思われる「支倉橋」の痕跡を発見したそうです！支倉橋は元禄7年(1694)の洪水で流されてからは再建されず、少し上流の流れが緩やかな場所に「澱橋」が架けられた…という話は前回までのおさらいですね。支倉橋があったと思われる場所の対岸、川内側には「元支倉丁」という地名が残っています。これも立派な痕跡です。

